

緑化だより

No.181 令和4年4月号



ヤマシャクヤク

- 季節の花(やまぶき)
- 水生昆虫の話(はじめに)
- 小さな世界こけ
(コケが観察できる場所(18)
ニスビキカヤゴケ)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

ryokka 学の本

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2



広島県
緑化センター
二次元コード

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>

季節の花

やまぶき

「蛙(かわづ)鳴く 甘奈備川(かむなびがわ)に影見えて

今が咲くらむ 山吹の花」

厚見王(あつみのおおきみ) 万葉集 巻8:1435

これを訳しますと

(カジカガエルが鳴いている甘奈備川の水辺に影を映して、

今ごろはもう、ヤマブキの花は咲いているだろうか)

この歌の中の蛙はカジカガエル、甘奈備川は現在の奈良の飛鳥川のことで

厚見王の詠んだ古都奈良の美しく清らかな自然の風景が目には浮かぶようで、ふるさと飛鳥を懐かしく思い詠っています。

平安時代の醍醐天皇の第十一皇子、兼明親皇(かねあきらしんのう)の古歌に「七重八重花は咲けども山吹の 実の一つだになきぞ悲しき」(後拾遺集)があります。

江戸城を築いた太田道灌は、若き日に鷹狩(たかがり)に出て雨にあい蓑(みの)を借りようと民家に立ち寄った時、若い娘が何も言わずに一枝の八重山吹を差し出したので太田道灌は怒って帰宅してしまいました。その後、兼明親皇の歌の意「実の一つ」が「蓑の一つ」を意味することを知り、自分の無学を恥じて、一生懸命に勉学に励んだという有名な話が「常山紀談」に記載されています。この歌からもわかるように、平安時代から室町時代にはすでに園芸品種のヤエヤマブキが植栽されていたようです。

ヤマブキはバラ科ヤマブキ属の落葉低木です。北海道から本州、四国、九州に自生し、国外では中国大陸にも分布しています。低い山地や水辺に生え、高さ1~2m、茎は細い緑色で、葉は互生です。花は4~5月頃に鮮やかな黄色い花をたくさん咲かせます。花びらの数が5枚の一重咲きと花びらの多い八重咲きのものがあります。一重咲きのヤマブキは実がつきますが、八重咲きのヤマブキは雄しべが退化して花弁になっているため実はできません。



ヤマブキ

花のついた枝垂れた枝が風になびいて揺れると、まるで山を振り動かしているような風情から「山振」から「山吹」にかわったと言われています。

ヤマブキに似ているシロヤマブキは、花が白色で花びらが4枚、葉が対生です。これはバラ科シロヤマブキ属でヤマブキとは別属の植物です。シロヤマブキは岡山県西部と広島県東部のごく一部に自生地が限られており、環境省指定の絶滅危惧1Bになっています。花が上品で茶花として珍重され、挿し木、実生で繁殖力旺盛なため、よく庭で栽培されています。(上村)

水生昆虫の話

はじめに

今月から、広島県緑化センターの小川に住んでいる水生生物をご紹介させていただくことになりました。環境カウンセラーの西村と申します。記事を書くのは初挑戦でドキドキしていますが、これから楽しく水の中の生き物をご紹介して参りますので、どうぞよろしくお願いたします。

みなさんは、水生生物っていうとどんな生き物が浮かんできますか？

川の中には、魚類、両生類、貝類、エビやカニなどの甲殻類、水生昆虫、ミズやヒルなどいろいろな種類の生き物が住んでいます。例えば、暖かくなってくるとブーンと飛んできてチクッと刺すブユとか蚊の幼虫(ボウフラ)や、頭の上をいっぱい追いかけてくるユスリカの幼虫(赤虫)、トンボの幼虫(ヤゴ)なんかも水の中に住んでいます。他にも、アブの仲間やカゲロウ、トビケラなどなど、川の中には実に様々な幼虫も住んでいます。

この小さな幼虫達は、山から流れてくる落ち葉や生き物のフンなどの生き物由来の水の汚れ(デトリタスと呼ばれています)を分解したり、同じ水の中に住んでいる他の水生生物のエサとなったり、また羽化して成虫になると鳥や昆虫など陸の生き物のエサになったりと、「生き物の豊かな個性の繋がり=生物多様性」の中で、とても重要な役割を果たしている大切な存在でもあります。

そんな水生生物の中で、水質判定の指標となっている29種類の水生生物について、どの種類の生き物が多く見つかったかを調べることで、水の汚れの程度(水質)を判定する「水生生物調査」で緑化センターを流れる小川を調べてみると、なんと！きれいな水の指標生物がたくさん見つかります。

緑化センターの自然豊かな森の土が雨の水を浄化することで、きれいな水を育てているからこそですね。

さて、次回からは自然豊かな広島県緑化センターの小川に住んでいる、きれいな水の指標となっている生き物から順番にご紹介していきたいと思います。どうぞお楽しみに！(西村)



水生昆虫調査の様子

小さな世界 こけ

コケが観察できる場所(18)

ニスビキカヤゴケ

出会いの広場から少し中に入った左手に、フェンスで囲った湿地植物園があります。

入口を入れて右手に、胸の高さの石垣があります。

ヒメハイゴケ、トヤマシノブゴケなどを見ながら進んでいくと、膝の高さくらいのところに、幅1mmくらいで艶のある濃い緑色をした、ところどころ枝分かれましたニスビキカヤゴケが見つかります。

タイ類クラマゴケモドキ科のニスビキカヤゴケは、岩の上や樹幹に生育します。

長さ2~5cmくらいでところどころ枝分かれし、緑色で、光沢のある葉が、重なるように交互についています。葉が内側に巻き込んでいるため、肉厚があるように見えます。ニス塗ったような光沢があるのが和名の由来です。このコケを噛むと、口の中に辛みが広がりしばらく残るのが特徴です。この辛みはタデの辛みと同じ化学成分です。(山根)



ニスビキカヤゴケ
(上はオオギボウソウモドキ)



ニスビキカヤゴケの腹面

研修会のご案内

- | | |
|---|--|
| ○ 4月3日(日), 29日(金・祝)『自由工作塾』
木の実や枝を使って自由に工作しよう
※自由参加(随時受付)、1作品100円、荒天中止 | 10:00～15:00 イベント会場
講師:緑化センターボランティア
ふれあい湧 |
| ○ 4月3日(日), 29日(金・祝)『ネイチャーゲーム』
自然の中での遊びを体験します
※自由参加(随時受付)、無料、荒天中止 | 10:00～15:00 イベント会場
講師:広島市
シェアリングネイチャーの会 |
| ○ 4月8日(金)『4月の自然探勝』
散策しながら植物を観察します
※自由参加、無料、荒天中止 | 10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師:NHK 広島文化センター
アシスタント 上村 恭子 |
| ○ 4月11日(月)『早春の写真教室』
散策路を歩きながら植物の撮影について学びます
※要予約(先着15名)、無料、カメラ持参 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師:二科会会員
宗岡 泰昭 |
| ○ 4月18日(月)『立石山トレッキング』
距離往復2.5km、標高差150mに挑戦します。やや健脚向き
※要予約(先着15名)、無料、雨具持参、雨天中止 | 10:00～12:00 レストハウス前 集合
講師:緑化センター職員 |
| ○ 4月24日(日)『ユキモチソウを育てよう』
※要予約(先着15名)、材料費1,500円 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師:森林インストラクター
長井 稔 |
| ○ 4月29日(金・祝)『たね団子を作ろう』
草花のたね団子作りに挑戦しよう
※現地受付(各先着20名)、材料費200円、雨天中止 | 1回目 11:30～ イベント会場
2回目 14:00～ 同上
講師:緑化センター職員 |

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するため、参加者はマスク着用、手・指の除菌、密集・密接を避けるようご注意ください。また状況によっては、研修内容の変更や中止となる可能性があります。ホームページ、お電話等で最新の情報をご確認ください。

☆お知らせ・ご案内☆♪

- ・ひろしま遊学の森 スタンプラリー2022 春 ～5月22日(日)
スタンプラリー:緑化センターと森林公園の両園でスタンプを集めて景品ゲット!
- ・さくら祭り ～4月17日(日)
さくらクイズに参加して景品ゲット
期間中、早咲きから遅咲きのサクラ約60種類が楽しめます。
- ・さくら祭りお楽しみイベント 4月3日(日) 10:00～15:00
場所:レストハウス前広場
- ・第26回みどりの集い 4月29日(金・祝)10:00～15:00
場所:多目的広場

◎展示会

- 場所:レストハウス(ガラスケース展示)
陶友会 陶芸作品展 4月28日(木)～6月28日(火)
- 場所:学習展示館(ボード展示)
緑化センターのさくら写真展 ～4月17日(日)



緑化センターのさくら写真展